

中国新聞130周年ウェルビーイング企画

のびる!!
ひろしま

中国新聞130周年ウェルビーイング企画

幸福感じられる広島に

中国新聞は5月5日、創刊130周年を迎えました。節目の年を記念して、人々が自分の人生や生活に幸福を感じ、満足している状態を示す「ウェルビーイング」に着目した企画「のびる!!ひろしま」を展開します。企画のキックオフでは、広島をウェルビーイング

な地域にするために、医学博士で公益財団法人Well-being for Planet Earth代表理事の石川善樹さんと学術博士で叡啓大ソーシャルシステムデザイン学部長・教授の保井俊之さん、中国放送アナウンサーの田村友里さんが語り合いました。

やすい・としゆき 1962年生まれ。大阪府高槻市出身。東京大教育学部を卒業後、85年に大蔵省(現財務省)に入省。国際機関や在外公館などに勤務した後、地域経済活性化支援機構常務取締役などを歴任。2021年から現職。



学術博士、叡啓大ソーシャルシステムデザイン学部長・教授
保井俊之さん

自然も食も充実豊かな地域

石川 若年女性のウェルビーイングを特に重視するべきです。日本性都市と名付けて話題になりました。出産世代の20、30代女性が将来的に半減すると試算されたからです。



広島をウェルビーイングな街にするためにどうすればいいのか、語り合う石川さん、保井さん、田村さん(左から)

人に興味抱き関係深めよう

―広島の人々のウェルビーイング度は―

保井 都道府県別の幸福度調査は複数のシンクタンクが実施しています。いずれの調査でも、広島は真ん中あたりの20番台でそれほど高くないものの、特徴があります。社会や地域における人々の結び付きを示す「ソーシャル・キャピタル」の調査(2008年)では、広島は総合12位です。また、子育て世帯の移住幸福度ランキング(16年)で広島は7位。地域の中ではつながり上手なんです。



医学博士、公益財団法人 Well-being for Planet Earth代表理事
石川善樹さん

いしかわ・よしき 1981年生まれ。広島市出身。東京大医学部を卒業後、ハーバード大公衆衛生大学院修了。2018年に「公益財団法人 Well-being for Planet Earth」を立ち上げ、代表理事に。著書に「フルライフ」(20年)など。

で、そういう広島が大好き。一方で、県外の人には広島は豪雨などの災害が多い県だというイメージがあるみたい。ハード面だけでなく、地域の絆を強くしたり、快適な避難所を設けたりといった災害に強い地域づくりも、住民のウェルビーイングにつながりませんか。

石川 災害が多い地域はつらいことも多いですが、物事をどう捉えるかです。被災や多くの災害を経験してきたからこそ立ち上がる力が身に付き、結果的に広島の底力になっているのではないのでしょうか。

ウェルビーイングとは

Well-being(ウェルビーイング)とは、「幸福」のことで、心身と社会的な健康を意味する概念。国内総生産(GDP)や健康寿命の長さ、教育や医療を受けられる環境などを基準とした「客観的ウェルビーイング」と、個人が肉体的、社会的、精神的にどう感じているかで判断する「主観的ウェルビーイング」がある。国民の主観的ウェルビーイングが低下すると、政治的・社会的な混乱があるといわれ、企業でも生産性が低下したり、離職率が上がったりして経営に悪影響が出る。国連が調査した最新の世界幸福度ランキングで日本は56位。

保井 人との関係性だけでなく、自然との対話も大切です。私は森



広島県知事
湯崎英彦

より良い広島を皆さまと創る

広島県としても、全ての分野において、多様な主体とともに、元気、美味しい、暮らしやすい広島を磨き、発信する取り組みを推進してまいります。私たちみんなでより良い未来の広島を創っていきましょう。

県民の皆さまが、将来にわたって広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かったと思える広島県を実現していくためには、さまざまな分野において、人々が感じる喜びの度合いを高め、幸せの美感を積み重ねていくことが重要です。そのためには、まず私たちは、先人たちが築き上げてきた広島が誇る素晴らしい資産を再認識し、確かに素晴らしいと実感することが必要ではないでしょうか。

企画・制作 中国新聞社東京支社営業部

古里の魅力探し 幸せの一步



中国放送アナウンサー
田村友里さん

たむら・ゆり 1996年生まれ。呉市出身。明治大政治経済学部を卒業後、2019年中国放送に入社。現在、テレビでは情報番組「アサヒの木曜コナール花よりガッツ」リポーターやTBSの朝番組「THE TIME」の中継などを担当。

く出ました。慣れない土地で苦労した経験が、レジリエンスにつながっています。心が打たれ強いと主観的ウェルビーイングは高いといわれ、そういった人たちは創造性が豊か。広島発祥のイノベーション企業が多いのは、根底に心の耐性があるからだと思っています。

―広島をウェルビーイングを高めるためのヒントを教えてください。―

石川 田村さんが自分をウェルビーイングが高いと思っている大きな要因に、「人が好き」というものがあるのでは。私たちは普段、他人が「何をしているか」のことに焦点を当てていて、人をよく知らないことが多いです。ウェルビーイングの本質は人に興味を持ち、人との関係性を築くことです。

田村 そうですね。モノやコトよりも人と触れ合うことが好きです。ロケなどで取材した人を、すぐだなと思います。先日、取材で出会った三原市漁協の方が災害時でもおいしく食べられるようにと、特産タコの缶詰の製造・販売に乗り出している。熱意を持って地域を活性化しようとしている方に会えると、元気になるますね。

田村 私2時間ぐらい浜辺で海を見て過ごすことがあります。人に出会って仲良くなり、自然とも対話しているから、私はウェルビーイングなんです。

石川 人と自然と向き合う時に、首尾一貫していてもいいと思います。自宅での自分、職場での自分と、それぞれの場所が違っていていい。心地よい自分であればよくて、無理しないことが大切です。



三原のロケでタコに触れる田村さん

保井 自分の中の多様な自分を大切に、一つの立場に縛られないことがウェルビーイングになるポイントでもあります。家や職場以外のサイドプレースをつくることもいいですね。

田村 そうですね。広島で頑張っている人を積極的に発信していきたい

5.13

広島のびしろドラフト会議、開催。
あなたが知っている「広島の魅力」を募集します。

特設サイトからご投稿いただくと抽選で豪華プレゼント当たる! 詳しくは5月13日の朝刊をご覧ください。#広島のびしろドラフト会議